全国高等学校体育連盟ラグビー専門部　御中

（2018/9/28）

提　案　書

“ニュージーランド　ラグビーキャンプ”

クライストチャーチ　ボーイズハイスクール　プログラム

2019

日程:　**2019 年 7 月 21 日（日）ー7 月 29 日（月）**

目的:　**ラグビー大国ニュージーランドのラグビー強豪高校では高校生をどのような環境でどのように指導しているか？**

ニュージーランドの高校における恵まれた「学校ラグビー」の基盤を体験し、試合、練習、ホームステイなどを通して個々のラグビー技術向上と共に、地元の人達との交流をはかり、教員・生徒の「ラグビーに対する自己啓発」を語るプログラムです。

このプログラムでは、生徒ひとりでも参加できニュージーランドラグビーを体験できる機会を提供、ニュージーランドでのラグビー体験を通じ自己啓発や国際理解教育に貢献します。指導者には、学校内に 23 チームをもつ NZ 公立校のラグビー管理、育成指導法、トレーニングシステムなどを学んでいただけます。

＊現地NZ高校との練習試合、
＊NZ高校生と合同練習、
＊現地の試合観戦、
＊NZ 高校でのトレーニングなどを含む

企画:　日本ニュージーランドセンター

NZ 受入:　NZ 公立男子高校　クライストチャーチボーイズハィスクール

CBHS 校とは

Christchurch Boys' High School(CBHS)は、1881 年創立、生徒数は 1404 名（2017 年現在）文武両道を信条とするニュージーランドを代表する名門校です。学問、スポーツともに好成績の獲得を目標とし、音楽、美術、演劇、文芸領域でも多くの受賞歴があり高等教育機関への進学率が高く、スクールカラーは青と黒が特徴的な制服を着用。

CBHS 校は 1996 年にラグビーがプロスポーツになって以来、間違いなく世界でナンバーワンのラグビー校となっています。 これまでに 45 名のオールブラックッス選手を輩出し、1996 年ラグビープロ化以来これほど多くの国際的な選手を生み出している学校は世界のどこにもないと言えます。CBHS 校はこれまでオールブラックス 15 名、日本代表 3 名、アメリカ代表1名、アイルランド代表1名、オールブラックスコーチ 2 名を輩出しています。2013 年の無敗オールブラックスメンバーには、CBHS 校出身の選手 7 名とヘッドコーチが含まれていました。1996 年以来 65 名がプロのラグビー選手として活躍しています。

CBHS ラグビーの成功の秘訣は、学業の努力と、ラグビーの卓越性、文武両道という同校の理念に基づくものです。同校のラグビープログラムは、リーダーシップ、イニシアティブ、バランスの卓越性の追求に焦点をおいています。

＊CBHS 校には 530 名のラグビー選手、U13—U19 まで 23 チーム、
＊コーチ 44 名、マネジャー23名、理学療養士 2 名、ウエイト・インストラクター1名、コンディショニングコーチ 2 名が在籍
＊ラグビーフィールド 4 つ、校庭 6ha、体育館 2 棟、全天候型トレーニング施設1棟

担当：

Mr Nic HILL
校長

Mr Carl EVERETT
国際部長

Mr Danny Porte
1 軍コーチ・国際ラグビーコーチ

手配：　ニュージーランドの受入手配はクライストチャーチボーイズハイスクールです。同校が行程に必要な現地全ての受入手配を行い、行程に学校職員を帯同させ、ラグビーキャンププログラム遂行に積極的協力体制を整備します。

宿泊：　クライストチャーチ市内：　学生：CBHS 校ラグビー選手宅にホームステイ
教員：市内モーテル（原則として 2 名 1 室）
（※CBHS 校が全ての宿泊手配を行います。）

■ **日程：**　**2019 年7月 21 日（日）～7月 29 日（月） ： 8泊 9 日（機内2泊）**

■ **参加費：**　**一人@28万円** （学生・教員とも） 旅行諸費用は別途

（関西空港までの交通費は各自別途）
（但、教員の方はホテル 2 名 1 室の料金。1 人部屋希望の場合は別途費用）
＊燃油サーチャージなどの旅行諸費用を除く
＊NZ 教育省推薦の NZ で対応範囲の広い NZ 保険会社の旅行者用医療保険（別途）の加入をお勧めします。
＊学生：現地試合用チームジャージ費用@￥5，800別途

■ 申込締切：　**2019 年 5月 20 日（月） ≪生徒申込先着順受付： 30 名≫**
募集人数に達した時は締切前でも募集締切ります。
※希望者は女子も可。但、女子はチーム編成可能な場合に試合出場可。

■ 集合:　　　　関西空港 4階 南側 国際線出発ロビー H チェックインカウンター
シンガポール航空 カウンター前

集合後、チェックインの前に全国から集合の選手・コーチが顔合わせを行います。

☆★☆★★☆★☆★☆★☆★★☆★☆★☆★☆★☆★★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★★

企　画　：日本ニュージーランドセンター
〒540-0012
大阪市中央区谷町 1-4-2 大阪オルガンビル 8F
TEL : 06-6944-3511,　FAX : 06-6944-3512

協　力　：ニュージーランド国・クライストチャーチ ボーイズハイスクール
PO Box8157, Riccarton, Christchurch, NEWZEALAND
TEL:64-3-346-5003, FAX: 64-3-348-8121

後　援　：ニュージーランド大使館
【取得済】
〒150-0047
東京都渋谷区神山町 20－40
TEL:03-3467-2271,　FAX:03-3467-6843

渡航手配：日通旅行株式会社:
〒541-0041
大阪市中央区北浜 1-1-6
観光庁長官登録旅行業第1937号
TEL:,:06-6231-0303, FAX06-6201-1991

＊＊＊
2018 年ラグビーキャンプより：

スプリントトレーニングコーチと

生徒アンケート抜粋：

＊ ニュージーランドの人たちはとても優しくて友達も何人かできた。このキャンプを通じてラグビースキルの向上だけではなく、コミュニケーション能力、英語での会話力も身についた。この経験を生かしてさまざまな場面で活躍できる人間を目指したいと思う。

＊ 怪我をしていても、皆と同じように練習ができたので楽しかった。日本と違い、ミスを怒るのではなく、チャレンジしない方がコーチは嫌がっていた。消極的な者はどんなに良い環境でもうまくならないと言われたのでこれからは色々なことにチャレンジしていこうと思った。

＊ このキャンプでは日本でできない環境でラグビーをできてよかったと思います。日本に帰ってからでもできるような簡単なトレーニングなども教えてくれたので日本に帰ってからでも実行していきたいです。

＊ 学校から一人のみで参加して不安になっていたがホストファミリーが自分の英語を理解してくれ、聞き返したら簡単な英語を使ったりゆっくり話してくれ優しいと思った。ラグビーでは自分が改善していくべき点を理解したと思う。試合では課題の改善はできなかったが堂々とプレーできたと思う。この経験が無駄にならないよう努力していきたいと思う。

＊ 他の人より経験が少ないため、ミス等が多く、迷惑をかけることが多かったにも関わらず、親切にラグビーを教わることができとても嬉しかった。ホストファミリーにも恵まれ、毎日おいしい食事を用意してもらったり、学校まで送迎もしてもらってよいラグビーキャンプになった。

＊ ラグビーの練習以外でも色々なプログラムがあり、どれもとても楽しかった。特にハカの練習が印象に残っている。ホストファミリーの対応がとても良くて料理もおいしく、ラグビーの観戦にも行った。このキャンプの関係の皆様のお世話になり、快適に過ごせました。有難うございました。

＊ 最初は皆、緊張していて全然まとまりがなかったけど、日がたつにつれ、まとまりが出てきて最後に試合に全力を出し切って楽しめることができたのでよかったです。ホームステイ先の人もいい人でこのラグビーキャンプは一生の思い出です。本当に良かったです。

＊ ホームステイ先の家族がすごく優しくて、僕は全然英語が話せなくてずっと困っていましたがホストファミリーはいろいろと気を使ってくれました。NZラグビーキャンプでいろんなことを学びました。コミュニケーションは大事！！絶対にコミュニケーションがないとラグビーのゲームができなくなるからです。NZコーチからは練習のスキルがすごくてわからないところを細かく教えてくれました。日本にはそんなにないスクラムマシーンを使えてとてもうれしかったです。

＊ ホームステイ先もよく、充実したプログラムの中でラグビーができた。NZに来て自分が一番変わったと思うのは「ここではいかに人々がラグビーを楽しんでいるかということ」を発見したことです。来る前は練習中に楽しむことは少なかったが、NZでは練習中にラグビーを楽しむことができた。スキル面でも All Blacks のウオーミングアップメニューなどを教えてもらい、日本に帰ってからもやっていきたいと思った。

＊ 自分の人生において素晴らしい経験になった。なぜなら世界ランキング1位のNZでラグビーを教えてもらい、いい試合ができたからだ。このキャンプを通じてラグビースキルの他にコミュニケーションの大切さを知った。ホームステイでは自分のやりたいことをすべて英語で聞かなくてはならない状況に置かれたため英語の勉強にもなった。 最初は全然聞き取れなかったが日を重ねるにつれ耳が慣れ英語の上達を実感できとれもうれしかった。

＊ このラグビーキャンプに参加してラグビー以外にもニュージーランドのことを学ぶことができ充実した1週間でした。ニュージーランドは日本よりはるかにラグビーが生活に根付いて幅広い年齢が「部活」という感覚でなくラグビーを楽しんでいる姿を見ることができた。参加者も初日は学校ごとに固まっていたのが、最終日が近付くにつれて学校、学年を超えてコミュニケーションをとるようになりFW・BKの連携が取れ一つのチームになることができた。NZ生徒と英語で話すなど単なるラグビー遠征ではない貴重な体験ができたことに感謝している。